

公開情報資料

整理番号	2019.09-2		
研究課題名	特発性拡張型心筋症と診断された患者における、心肺運動負荷試験結果と精査時点での血液検査上の好中球リンパ球比等の関連因子と複合エンドポイント(全死亡、心血管死、心不全入院)との関連の検討		
研究期間	2012年4月1日～2030年3月31日		
研究目的	特発性拡張型心筋症患者のうち、心臓MRI上心筋中層の遅延造影を認める患者は、長期予後が悪いと考えられているが、心臓MRIが施行困難な患者も存在しており、他の予後予測因子を明らかにし、臨床に反映させる必要がある。		
研究方法	研究対象範囲	2012年4月から2019年3月までに岡山大学病院と岡山赤十字病院にて入院の上精査を受けられ、特発性拡張型心筋症と診断された患者で、かつ心肺運動負荷試験を実施された患者を対象とする。	
	利用する情報等	患者背景ならびに血液データ、経胸壁心臓超音波検査、予後調査等	
	利用方法	診療録から収集します。	
	他機関への提供	両施設間では、完全に匿名化された状態で受け渡されます。	
研究責任者	岡山赤十字病院 循環器内科 福家聡一郎		
問合せ先	岡山赤十字病院ホームページの[お問い合わせ]ボタンからメールにてお問い合わせください。		